

# 県立高等学校改革計画と 県立高等学校の現状及び課題

平成28年5月26日  
学校教育審議会資料

# 平成28年度県立高等学校の配置状況

## ○県立高等学校 89校 (独立校)

課程別学校数		学科別学校数			
全日制課程	本校 84校 分校 5校	普通科	52校		
		普通系専門学科	14校 理数科4校、英語科2校 文理科3校、国際文化科1校 体育科1校、美術科1校 国際科学科1校 国際・スポーツ科1校		
		職業系専門学科	37校	農業科	8校
				水産科	1校
				工業科	12校
商業科	15校				
家庭科	1校				
総合学科	9校				
定時制課程	独立校 5校 併置校 2校	普通科	6校		
		職業系専門学科	1校 工業科 1校		
通信制課程	1校	普通科	1校		

※学校数は延べ数で、生徒募集のある学校のみ計上。

# これまでの改革計画策定の経緯

中学校卒業生数の減少、社会情勢の変化

福島県学校教育審議会（平成5年6月答申）  
「生徒減少期における高等学校教育の在り方について」

（県立高等学校改革計画策定の検討）

高校教育改革懇談会（平成9年3月～11年2月）

## 県立高等学校改革計画の策定

平成9年6月  
第一次まとめ

平成11年3月  
第二次まとめ

# 県立高等学校改革一次まとめ

## 一次まとめ(平成9年6月)における改革の要点

- ① 県立高等学校改革の基本方針  
→ 1学年8学級以下 など
- ② 男女共学化  
→ 福島女子高校：橘高校  
会津女子高校：葵高校 など
- ③ 定時制・通信制高校の配置  
→ 定時制は県内各地区に、通信制は郡山萌世高校
- ④ 総合学科高校の配置  
→ 光南高校、安達東高校、小野高校 など

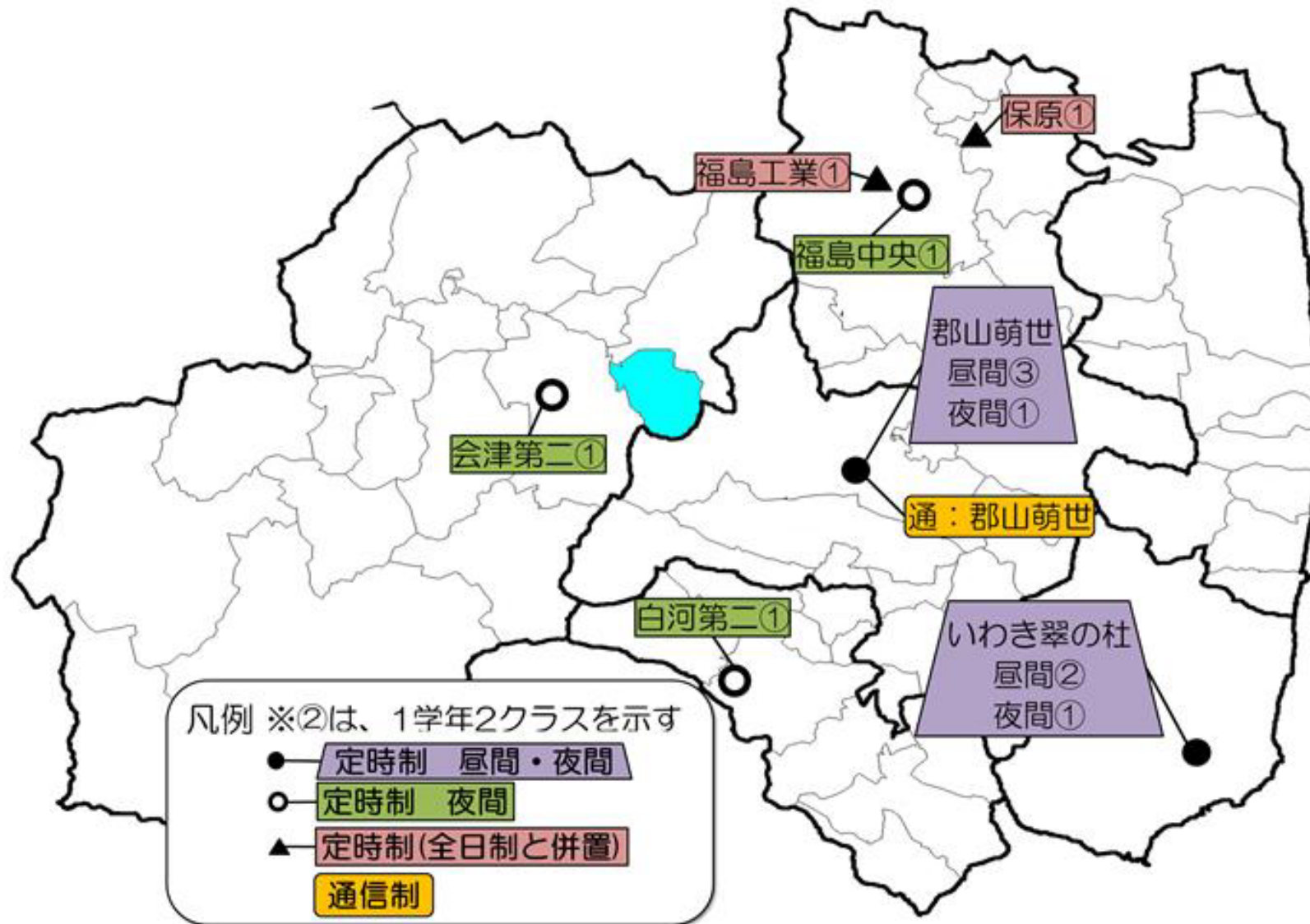
# 一次まとめの要点(男女共学化)

## 男女共学化の実施状況(平成6～15年度)

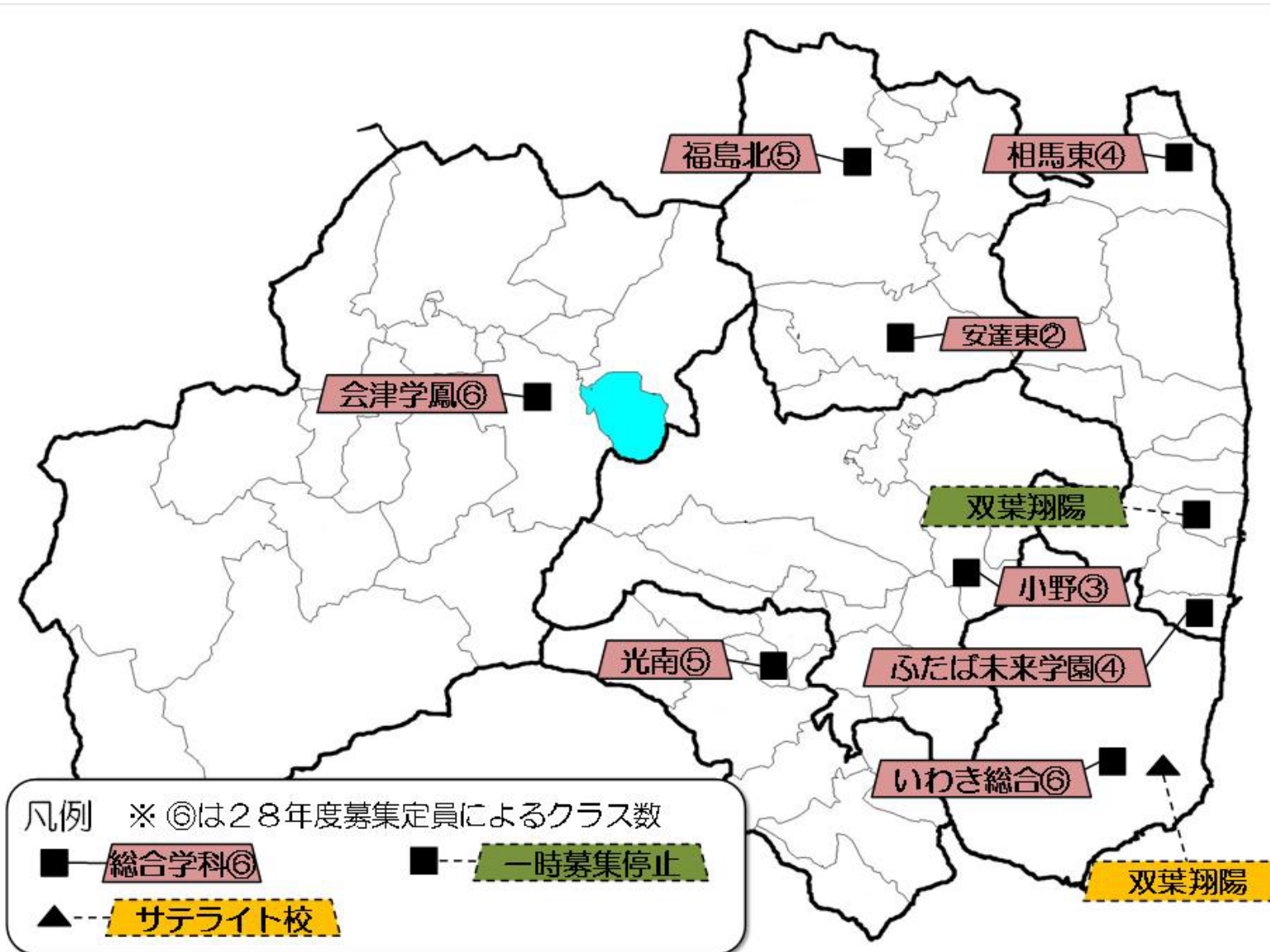
平成6年度	平成7年度	平成8年度
富岡	福島商業 福島西女子 → 福島西 福島東 須賀川(普通) 須賀川女子 → 須賀川桐陽	郡山(英語)
平成9年度	平成10年度	平成12年度
白河 白河女子 → 白河旭	郡山(普通) 郡山女子 → 郡山東	喜多方女子 → 喜多方東
平成13年度	平成14年度	平成15年度
安積 安積女子 → 安積黎明 磐城 磐城女子 → 磐城桜が丘	会津 会津女子 → 葵 若松女子 → 会津学鳳	福島 福島女子 → 橘 相馬(普通) 相馬女子 → 相馬東

※ 平成11年度は実施校なし

# 定時制・通信制高等学校の配置図



# 総合学科の配置図



# 県立高等学校改革（二次まとめ）

## 二次まとめ（平成11年3月）における改革の要点

- ① 学校の適正規模 → 1学年4学級～8学級
- ② 学校の適正配置 → 学校統合等を検討する際の基準

改革懇談会を開催し、統廃合が可能と判断された場合に統廃合

○ 隣接校（同一町内、又は同一市内にあり統合が可能な2校の統合を検討する際の基準）

- ・1学年の学級数が2校合わせて6～8学級になるとき
- ・隣接する市町村にある2校についても統合を検討

○ 校舎方式（隣接する市町村にある1学年2学級規模の2校の統合を検討する際の基準）

- ・どちらかが3年続けて、又は双方で同時に2年続けて入学者数が募集定員の1/2以下 のとき

○ 2学級規模の本校を分校化を検討する際の基準

- ・3年連続で入学者が募集定員の1/2以下

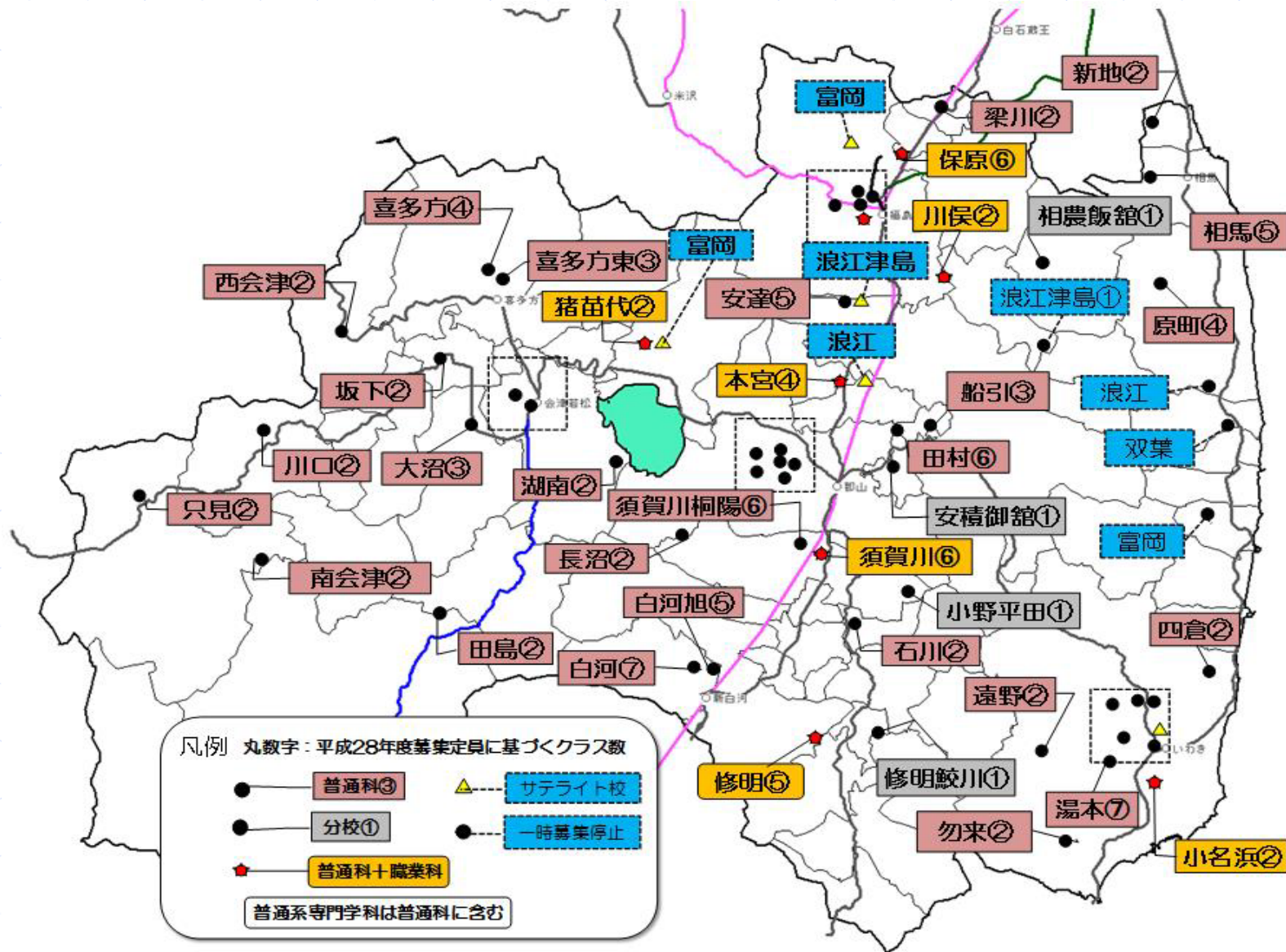
○ 分校の生徒募集停止を検討する際の基準

- ・3年連続で入学者が募集定員の1/2以下

- ③ 学科の適正配置 → 中高一貫教育校設置の検討 など



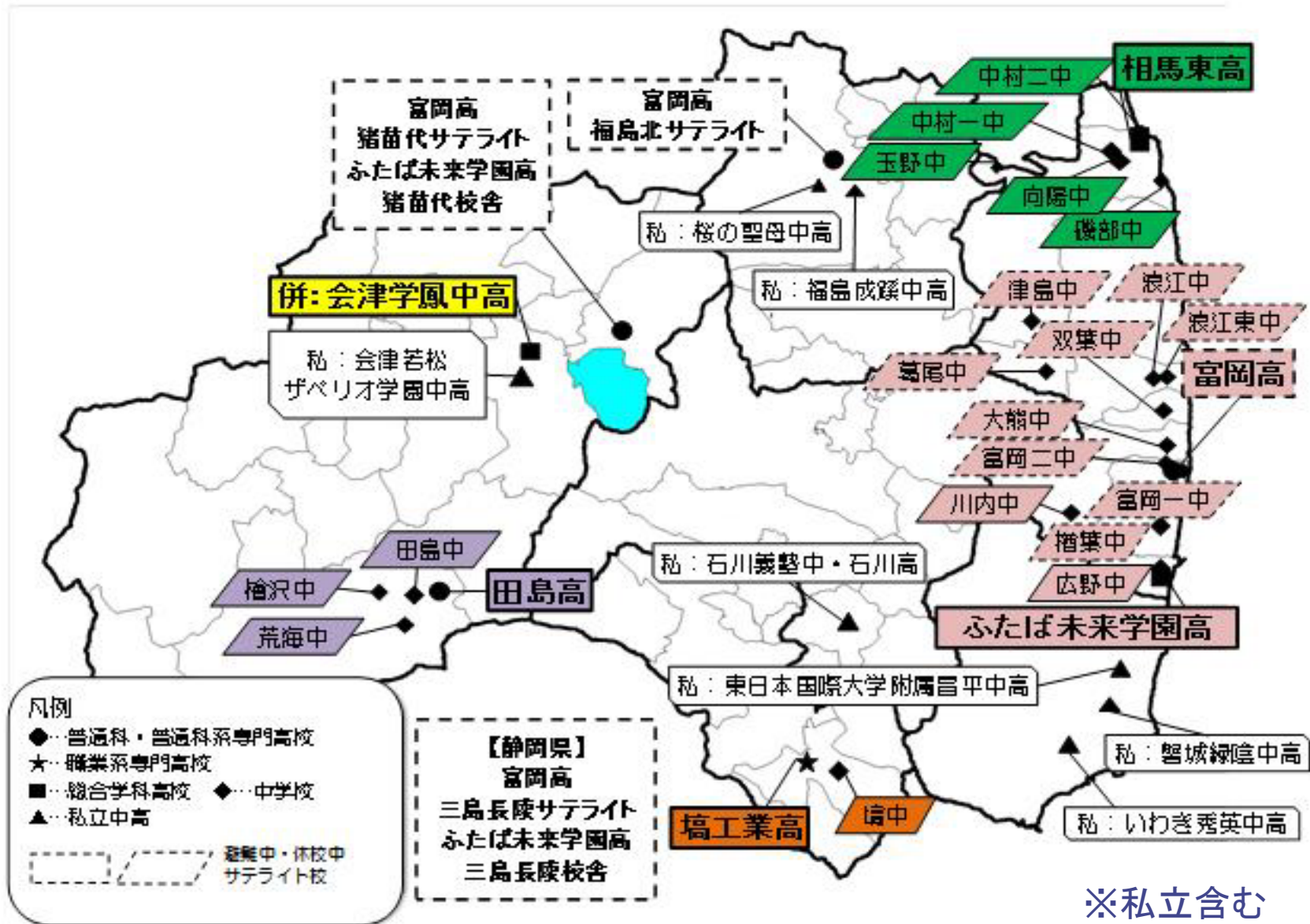
# 普通科等の配置図



# 職業系専門学科の配置図



# 中高一貫教育校の配置図

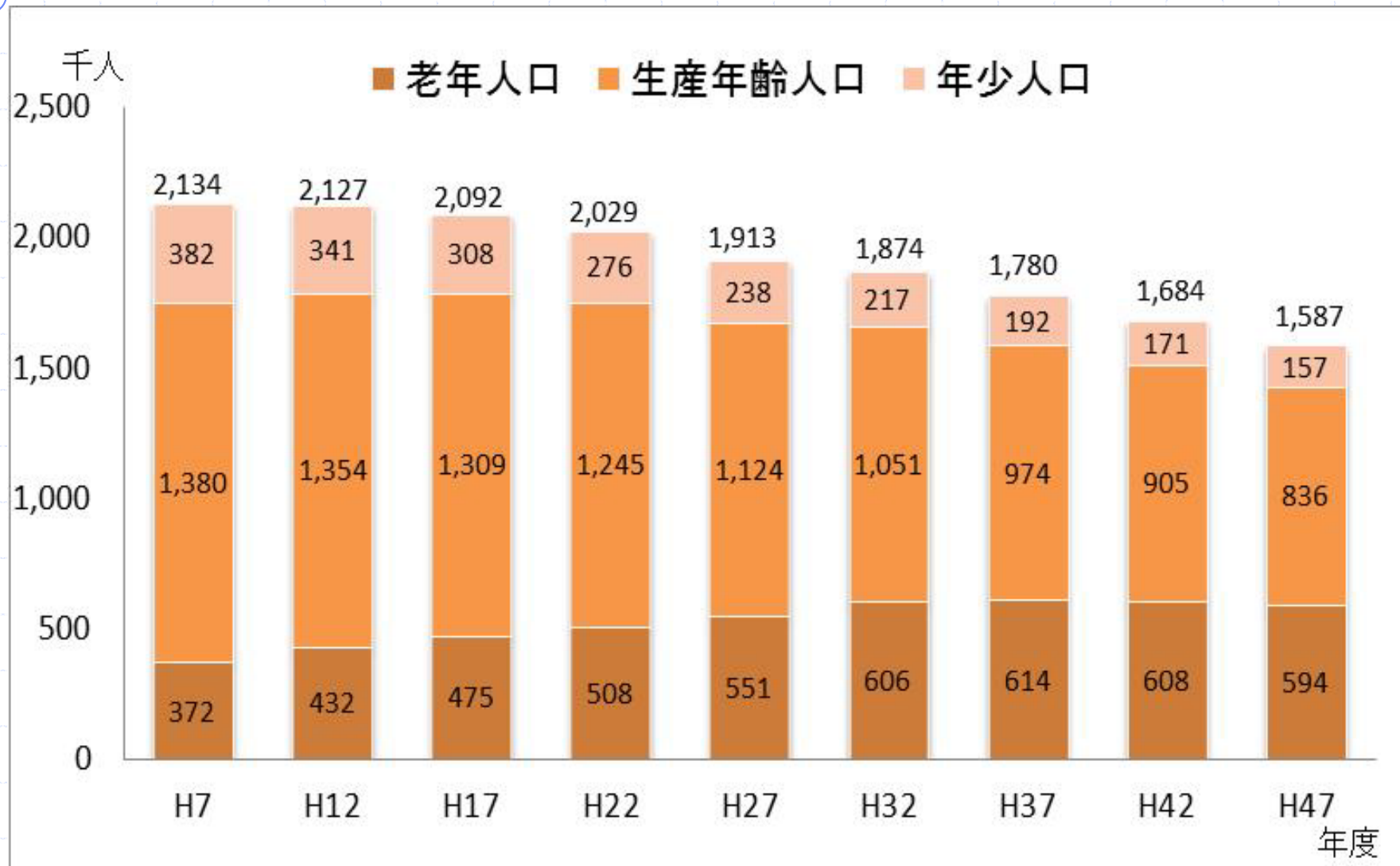


# 教育をめぐる社会経済情勢の変化

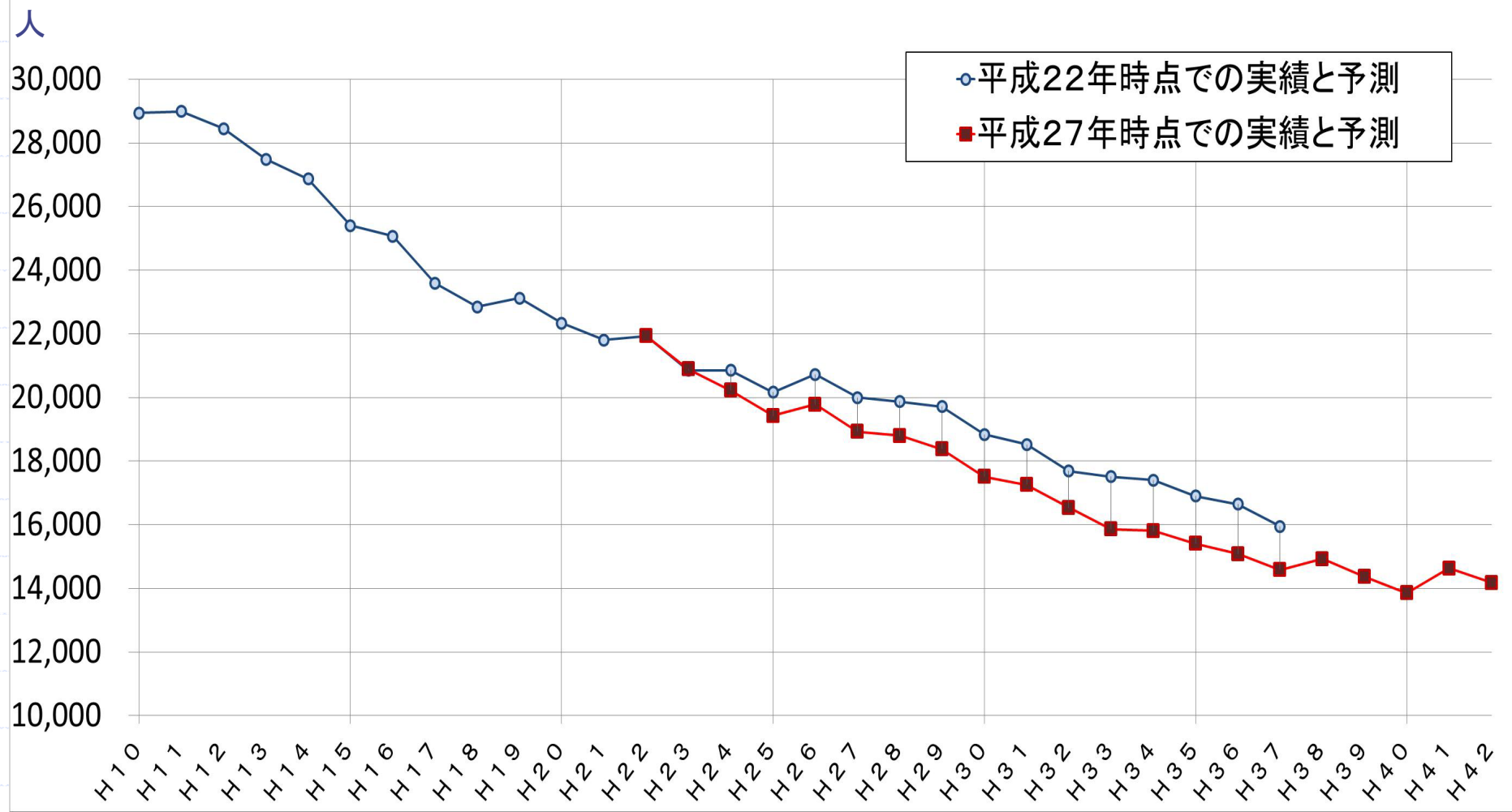
(近年における状況の変化)

- ◆ 人口減少と少子高齢化の急速な進行
- ◆ 過疎化の進行
- ◆ 情報通信技術の進展
- ◆ 国際化、グローバル化の進展
- ◆ 地球環境問題の深刻化
- ◆ 安全・安心の確保の必要性の高まり
- ◆ 東日本大震災等の影響

# 本県の人口及び将来推計人口の推移



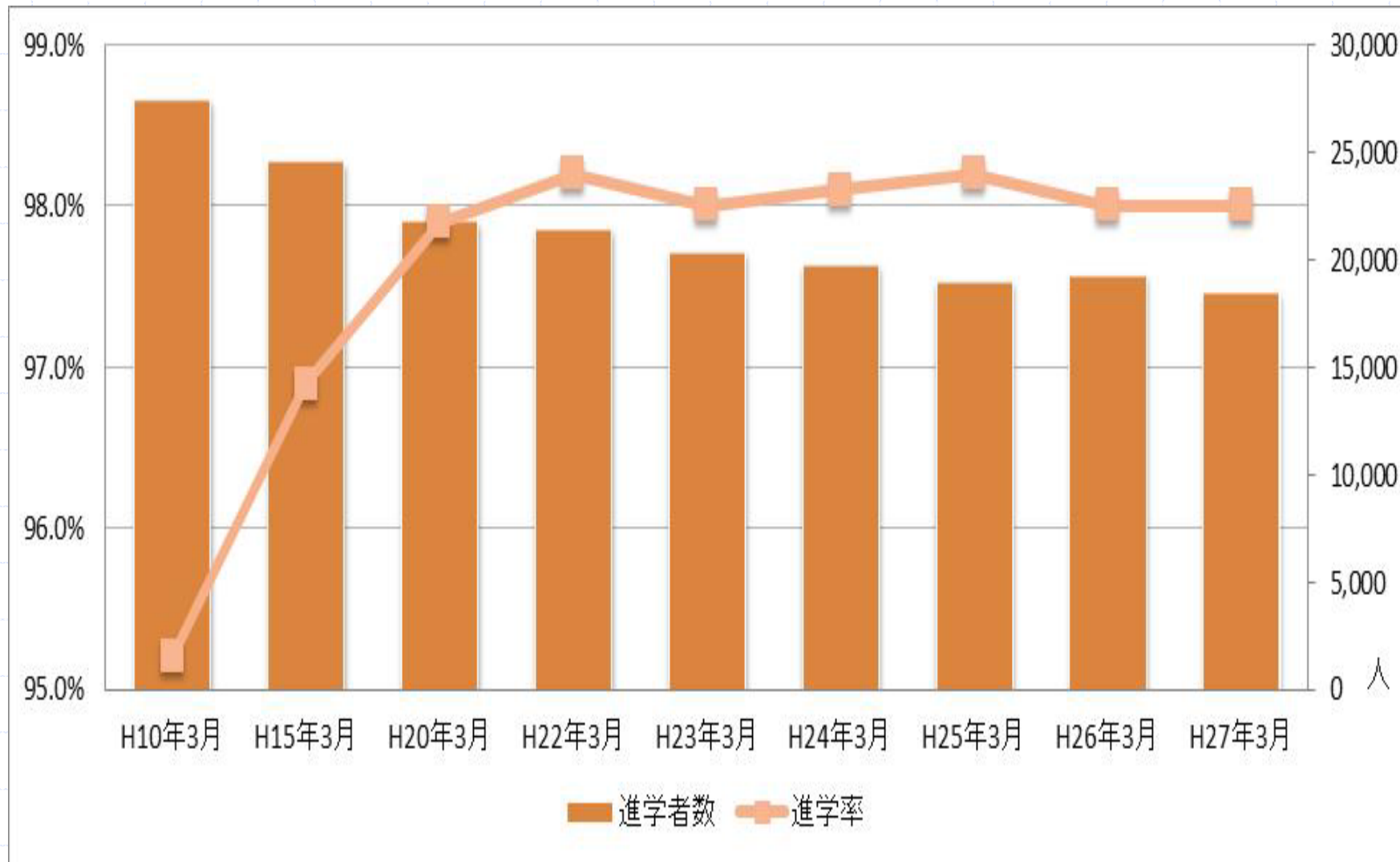
# 本県の中学校卒業(予想)者数の推移



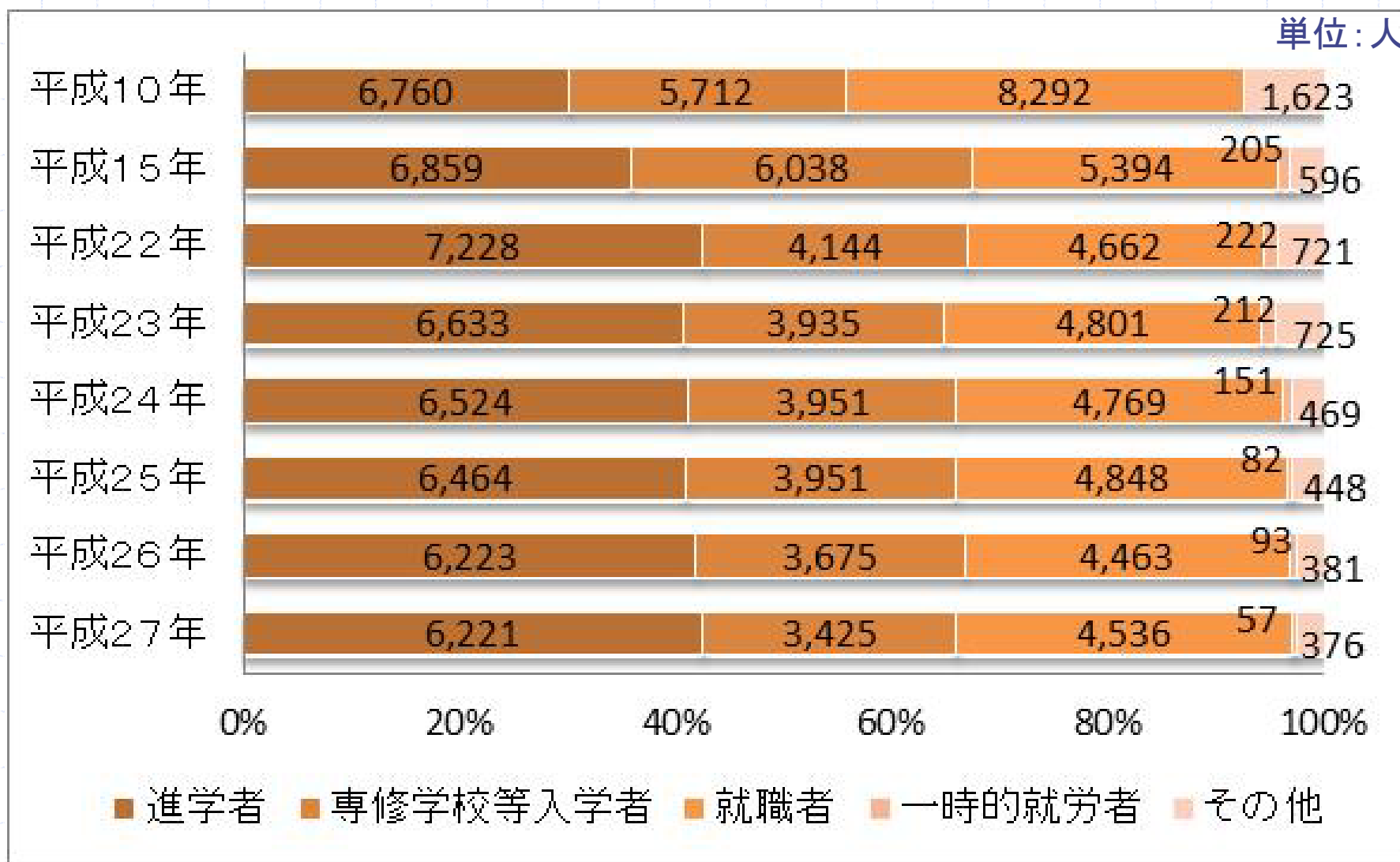
H10~H27までは実績、H28~H36までは「学校統計要覧」  
H37以降は福島県「現住人口調査」より

年度

# 本県の高等学校進学者数と進学率の推移

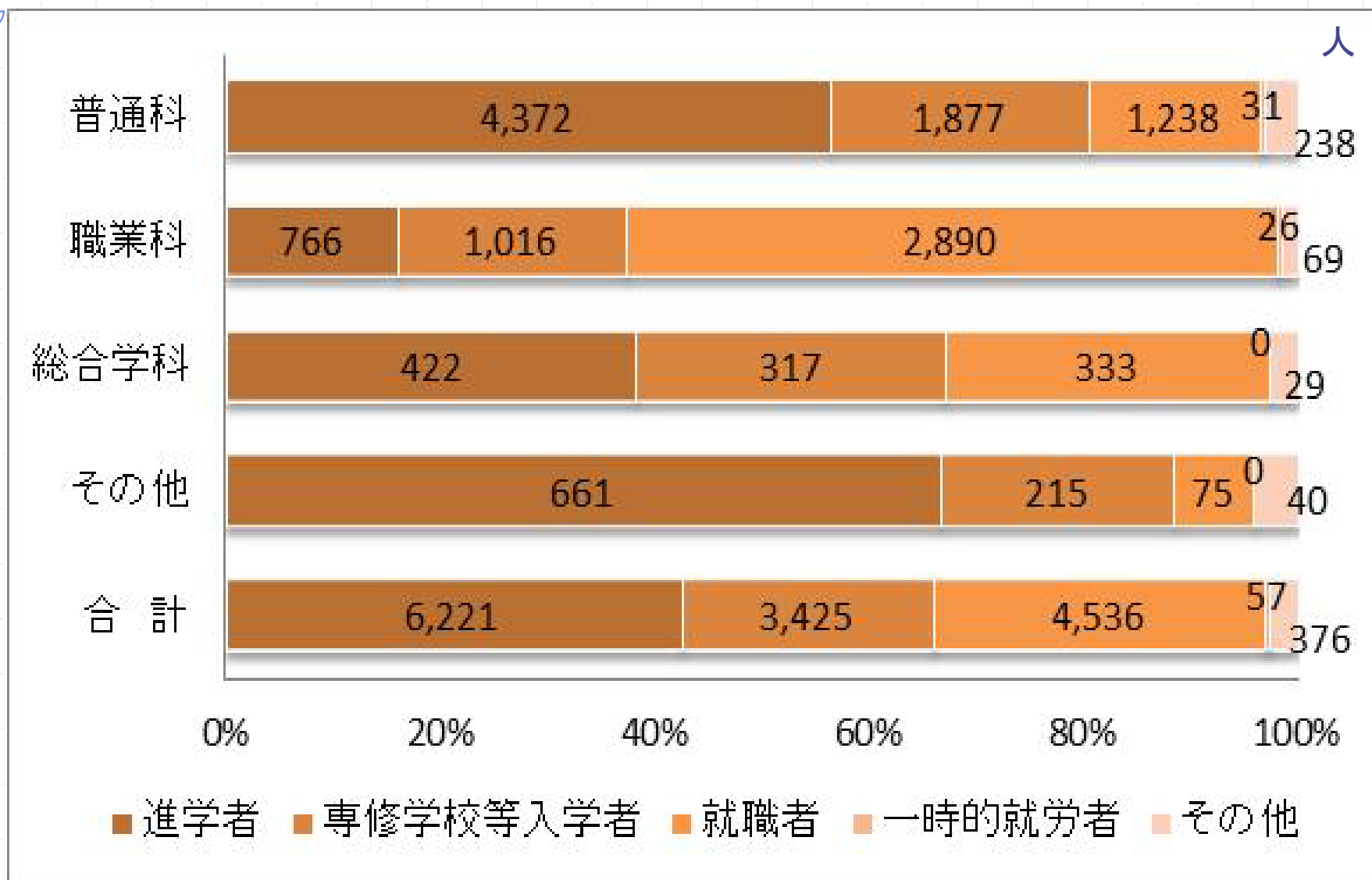


# 本県の高等学校卒業後の進路状況の推移

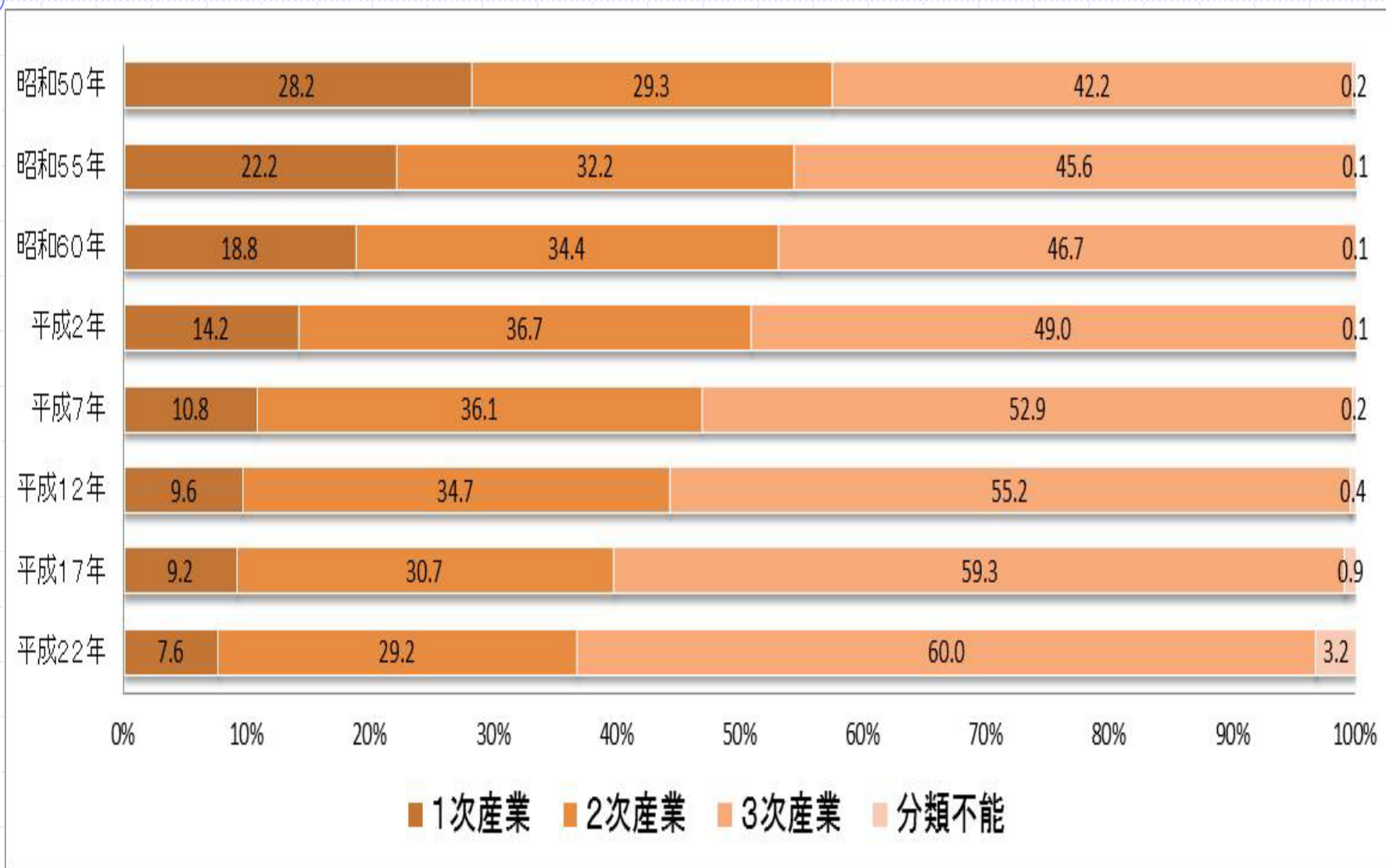




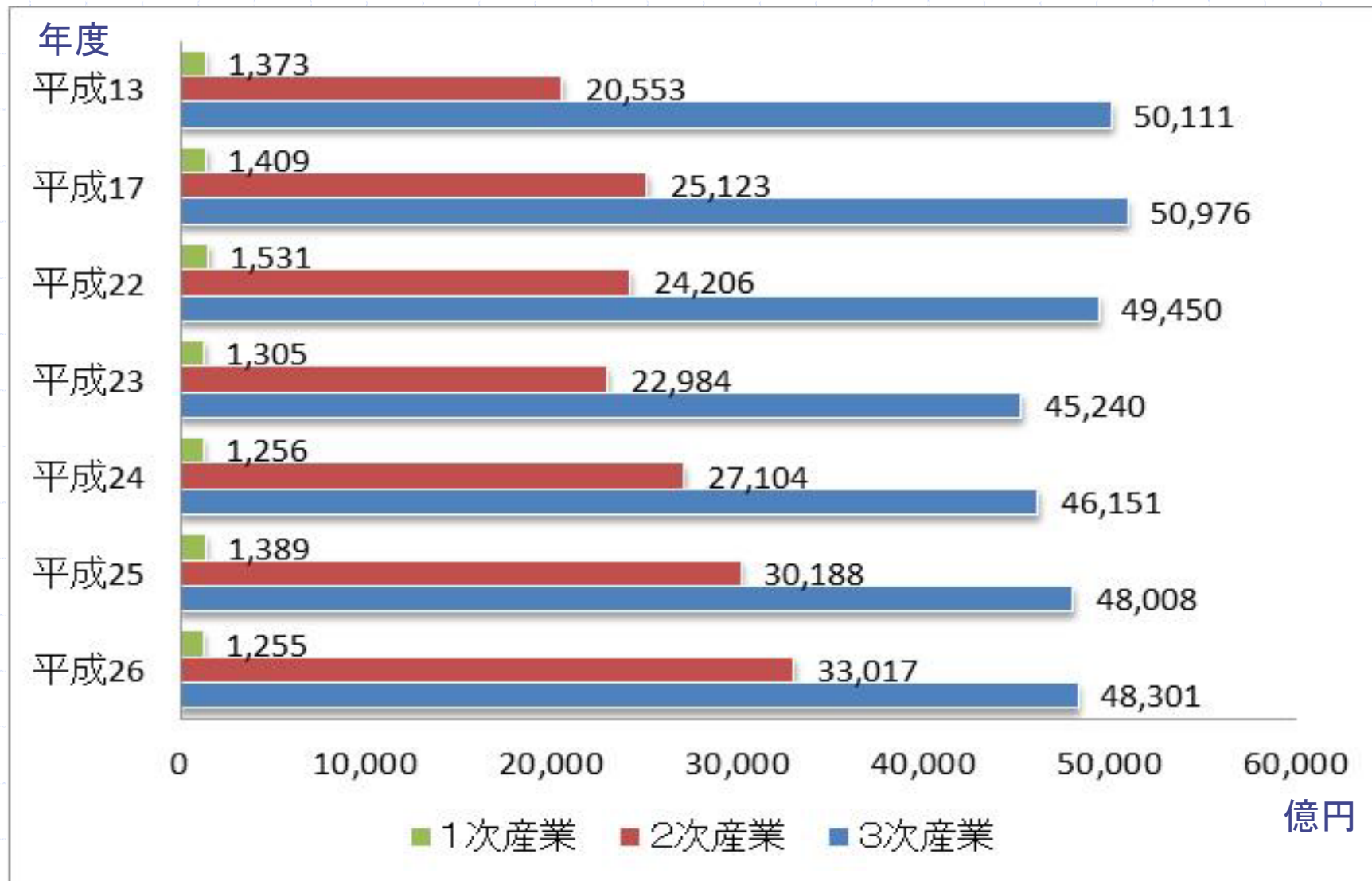
## 本県の高등학교の学科別進路状況(平成27年度)



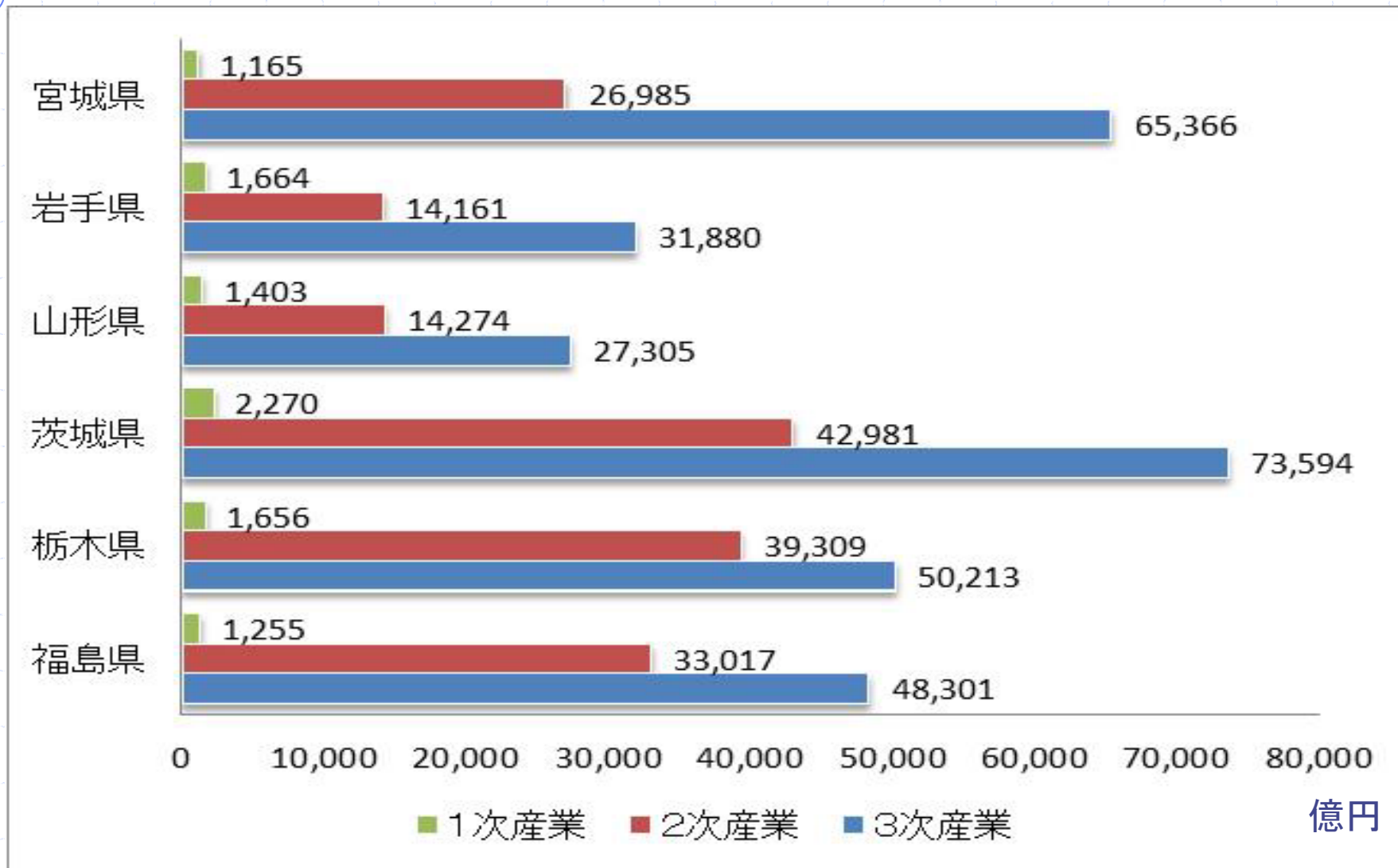
# 本県の産業別就業者数の推移



# 本県の産業別生産額の推移



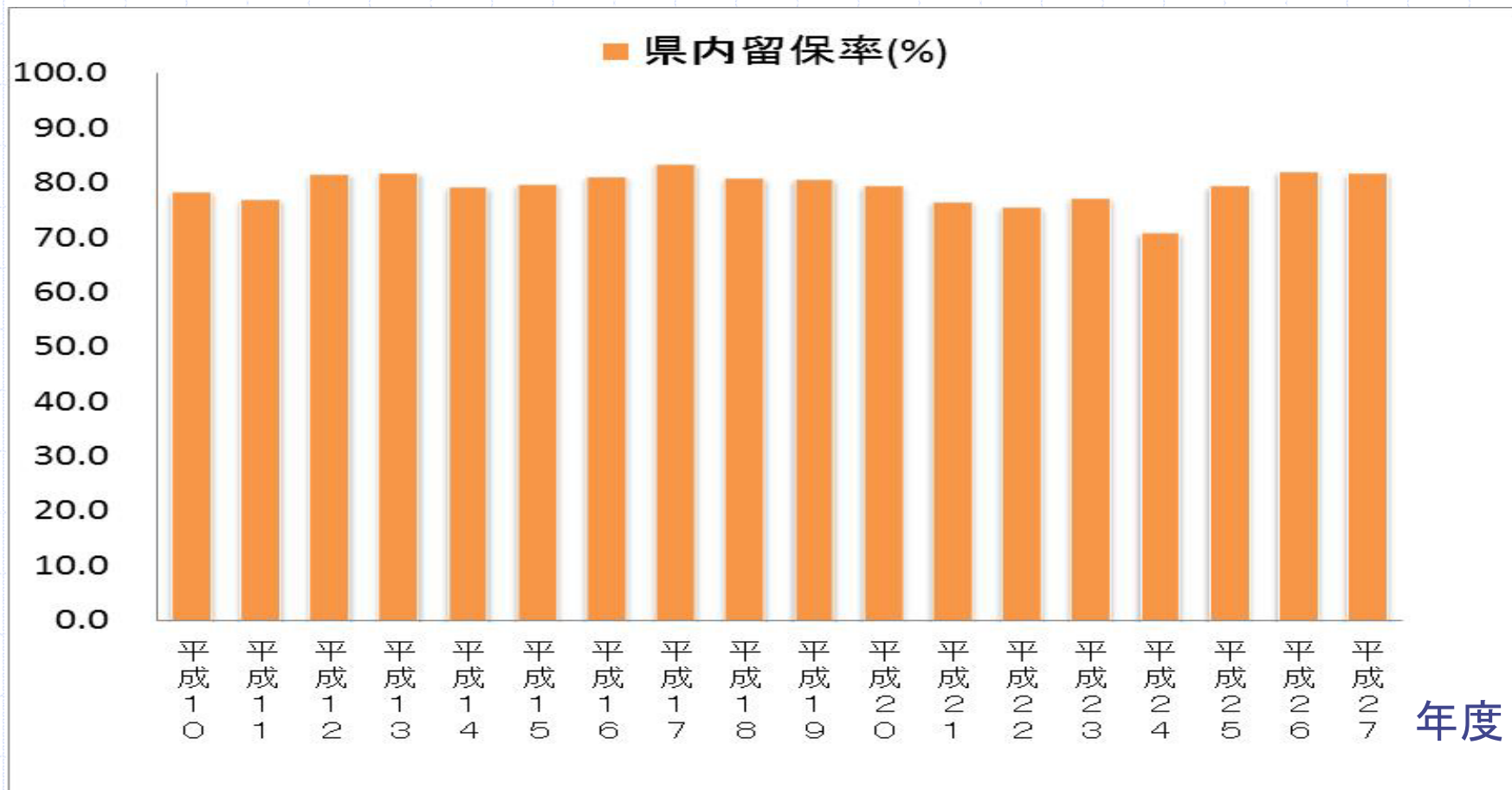
# 平成26年度産業別生産額の隣県比較



各県の「平成26年度県民経済計算の概要」をもとに高校教育課作成)  
 栃木県は平成25年度

# 本県高等学校卒業生の県内就職率の推移

本県高等学校卒業生(県立及び私立)の県内就職の割合。  
 (県内就職者数) / (就職者総数) × 100



# 今後の方向性1

## 震災の経験を踏まえた本県高校生の思い1

(1)「福島に生まれて、福島で育って、福島で働いて、福島で結婚して、福島で子供を育てて、福島で孫を見て、福島で曾孫を見て、福島で最後の時を過ごす。それが私の夢なのです。」

全国高等学校総合文化祭「ふくしまからのメッセージ」平成23年8月  
考案者 佐藤 季さん（福島南高等学校3年）

(2)「私は福島でヘア産業のプロとして地域を支え、共に歩み、少しでも復興に役立ちご支援頂いた全国の皆様に恩返しができるよう頑張ります。」

「理容2015メッセージ全国大会」平成27年10月  
優勝者 半谷竜磨さん（震災当時 浪江高校に在籍）

## 今後の方向性2

### 震災の経験を踏まえた本県高校生の思い2

ふたば未来学園高等学校開校 平成27年4月

(3)「故郷の復興を実現するため、ふたば未来学園高校での学習を通して、地域の未来についてしっかりとしたビジョンを持ちたい。」

平成27年度入学 日下 雄太さん

「一年生の故郷への思いは先輩にも負けない。私たちが故郷の未来を開拓する。」

平成28年度入学 遠藤 瞭さん

# 今後の方向性3

## 震災の経験を踏まえた本県高校生の思い3

- (4) 「演技をしている一瞬一瞬、観客の皆さんが私たちと福島を受け止めてくださろうとしているのを肌で感じていました。福島の未来が明るいものになることが確信できた一瞬であったように思います。」

『ふくしま総文を終えて』平成23年9月  
菊地麻由さん（会津若松ザベリオ学園高校3年）

- (5) 「演劇を通して、避難住民の方々には明るく元気になってほしい。」

「福島民友 みんなのひろば」平成25年5月  
『大沼高生が避難者を熱演 美里の仮設で演劇上演』  
増井結菜さん（大沼高校3年 演劇部副部長）

- (6) 「朝の散歩のときにすれ違う、今春、高校生になった女の子から手紙を頂きました。それには、『毎朝、あいさつをしてくれて本当にありがとうございます。あいさつをしてくれると“今日も頑張ろう”と気を入れることができました。』とありました。」

「福島民報 みんなのひろば」平成28年4月  
『あいさつ役立ち 生徒からの贈り物』いわき市在住の女性



# 今後の方向性4

第6次福島県総合教育計画（平成22年3月策定）  
基本理念 ふくしまの“和”で奏でる  
こころ豊かなたくましい人づくり

東日本大震災  
原子力災害  
（平成23年3月）

第6次福島県総合教育計画を平成25年3月に改定  
震災等を踏まえた新たな教育施策を積極的に盛り込み、  
生まれ育った郷土に対する愛着と誇りを持った、  
ふくしまの復興を共に支え、共に歩んでいく人づくり

## 今後の取組

- ◇ 県立高等学校の学校規模の適正化
- ◇ 特色ある学校づくり
- ◇ 中高一貫教育の推進 など

# 今後の方向性5

震災後の状況の変化を踏まえた  
第6次福島県総合教育計画（改定版）に基づく、  
新たな県立高等学校改革計画の策定が必要



（平成28年5月）学校教育審議会（諮問）

## 「社会の変化に対応した 今後の県立高等学校の在り方について」

### 内容

- 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の在り方
- 魅力ある教育活動を推進するために適切な学校規模及び学校・学科の配置
- 過疎・中山間地域における学習環境や学習内容の在り方
- 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上 など

### 3. 本県における県立高等学校改革の流れ

